

# 「創造的問題解決技法!! TRIZ」について

大阪学院大学 中川 徹

日本TRIZ協議会 公式ページより

<http://www.osaka-gu.ac.jp/php/nakagawa/TRIZ/jlinksref/JapanTRIZ-CB/JapanTRIZ-CB.html>

# TRIZとは何か?

- **Q: TRIZは何の略号ですか?**
- **A:**「発明問題解決の理論」を意味するロシア語の頭文字をつづったものを、英語の表記に直したものです。発音は、英語の'trees'とほぼ同じです。世界中にTRIZという表記で通用しています。
- **Q: 誰が始めたものなのですか?**
- **A:** 旧ソ連で、Genrich Saulovich Altshuller (アルトシュラー, 1926-1998) が、1946年に着想し、反体制として弾圧されながら50年に渡って発展させ、確立させたものです。
- **Q: なんだか、謎めいた感じですね。**
- **A:** たしかに、日本に本格的に紹介され始めた1996～1998年頃は、言葉の壁があって謎に満ちていました。欧米には、アルトシュラーの直弟子たちが多数移住して活動を始めましたから、もう少し直接に伝わったのですが、日本には間接的でしたから、私たちには謎めいていました。

# TRIZの基本的なモチーフ1

- **Q:** TRIZを生んだそもそもの発想はどんなものなのですか？
- **A:** アルトシュラーは若いときから発明の才があり、20才のときにすでに海軍の組織で特許関係の仕事をしていました。多数の特許を調査する中で、「特許のアイデアのエッセンスには、似たパターンがしばしば現れる。もしそのパターンを抽出して学べば、誰でも発明家になれるになれるだろう」と考えたのです。

# TRIZの基本的なモチーフ2

- **Q:** TRIZではそれらをどのように使おうとしているのですか？
- **A:** 基本的に問題を抱えている技術者たちの視野を拡張、自分の専門知識だけでなく、他の科学技術分野、他の産業などでの知識を有効に使えるようにしようとしているのです。**TRIZ**では「誰かがどこかであなたの問題をすでに解決している」というのを、「警告」としてではなく、「解決の鍵」として使おうとしています。自分の問題の「本質」が解決されているのであって、実際の問題の解決策は、状況によっていろいろに変化が必要であり、そこに自分の創造もあるのだと考えます。

# ポイント(まとめ)

- **Q:** それでいま、どんな企業が**TRIZ**を実際に使っているのですか?
- **A:** 今年のシンポジウムで発表されたものでいえば、日立製作所と松下電器グループとが全社的な活動として**TRIZ**を導入し、定着させています。また、富士フイルム、富士ゼロックス、日産自動車、松下電工、川崎重工なども、ボトムアップを主として、着実に導入し、実績を発表しています。電機や情報家電の主要企業では、程度の差はありますが、**TRIZ**を導入していない企業はないと思います。
- 方法論として参考になると思います  
特に、**TRIZ**の特徴として超音波を利用するアイデアが  
沢山提出されています (斉木)